

国際学術情報流通基盤整備事業

国際学術情報流通基盤整備事業について - 事業の概要と平成16年度の事業計画 -

2004年7月7日
国際学術情報流通基盤整備事業説明会

国立情報学研究所
National Institute of Informatics

国際学術情報流通基盤整備事業

問題点

- 日本の学術論文の約80%が海外雑誌に流出している。
- 日本の学術雑誌の国際的知名度が低く、国際的流通が不十分
- インターネットの普及にもかかわらず電子ジャーナル化が進んでいない
- 電子ジャーナル化されている雑誌でも大学図書館等へのビジネスモデルができていない

支援内容

- 日本を代表する学会の協力を確保
- 国際化支援、国際連携の推進
 - ・編集、査読の国際化支援
 - ・SPARC等海外機関との連携
- 電子ジャーナル化の支援
 - ・編集工程の電子化支援
 - ・J-STAGE等による電子ジャーナル発行支援
- 大学図書館への販売支援
 - ・サイロシステム的の支援
 - ・印刷パッケージ化の推進

成果

- 生物系パッケージ UniBio Pressの誕生
- 大学図書館等との電子ジャーナル購読契約
- 数学系ジャーナルへのProject Euclidの紹介
- 学術コミュニケーションの改革

目標

- 一流の国際学術雑誌を育て、日本からの研究成果の海外発信を強化する
- 学協会での電子出版活動の促進と日本の学術雑誌の国際的評価の確立

経緯

- 文部科学省
- 科学技術・学術審議会研究計画・評価分科会情報科学技術委員会のもとに、「デジタル研究情報基盤整備ワーキング・グループ」設置 (平成14年3月に審議のまとめ)

(抜粋)

「世界的に認知される学術雑誌を育成するため、既に国際的に高い評価を受けている学術雑誌及び政策的に推進している新領域の学術雑誌を重点的に支援し、電子出版化及び国際化の推進を図る。国立情報学研究所は、大学図書館等と連携して、アメリカやヨーロッパのSPARCと呼ばれる取組と連携するなど、これらの学術雑誌を中心として日本から発信する学術情報の国際的な流通を促進するための方策を行う。」

↓

- 日本発の英文学術論文誌を世界に発信する事業を計画

背景: 欧米では...

商業出版社の寡占化、独占化による価格の高騰

対抗

研究成果を研究者自身の手に取り戻す
学術コミュニケーション変革活動

SPARC*

米国研究図書館連合: ARL (Association of Research Libraries) により、1998年から活動を開始

最近の動向
Open Access
Institutional Repositories

背景: 我が国では...

何が問題か

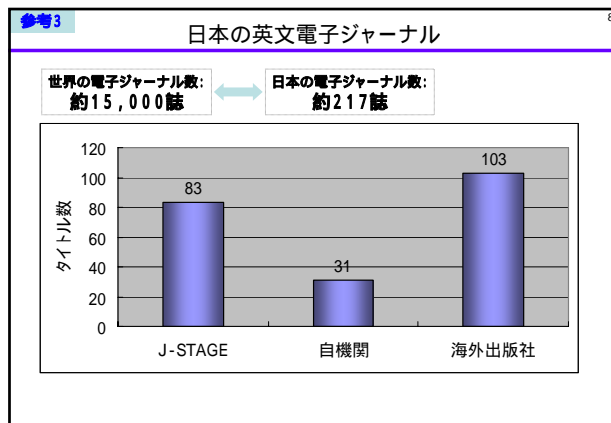
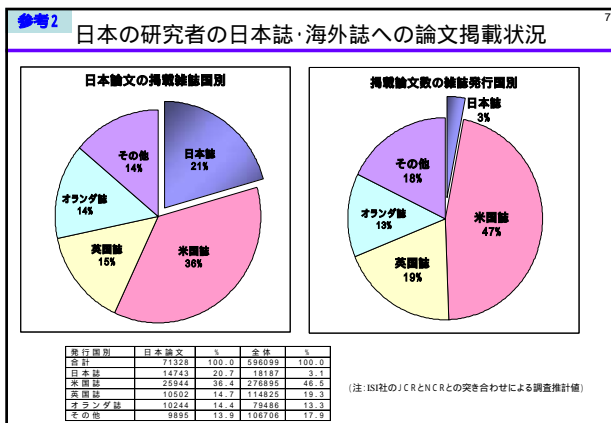
- 日本の学術雑誌の国際的知名度が低く、国際的流通が不十分
 - ◆研究成果の発表が海外誌に流出している。 参考1、2
- 日本の電子ジャーナル化への対応が未熟である
 - ◆電子ジャーナル化されている学術雑誌が少ない 参考3
 - ◆学術雑誌の電子ジャーナル化が海外出版社に流出している。 参考3
- ビジネスモデルが未発達
 - ◆日本発の電子ジャーナルは無料で発信されている。
 - ◆学協会の学術雑誌の安定的な発行が困難になっている。

→ 以上の問題点が悪循環に陥っている。

参考1 日本文献と日本発行誌の国際的状況

(米国ISI社JCRおよびNCRIによる調査推計値)

論文数等(2000年)		全体(実数)	理工系	生医系	社会系	学際誌
雑誌数	日本誌	144	63	74	5	2
	海外誌	3,676	1,396	2,105	206	55
	日本誌割合(%)	3.8	4.3	3.4	2.4	3.5
掲載論文数	日本誌	18,187	10,610	7,348	114	115
	海外誌	577,912	254,195	310,563	10,982	13,235
	日本誌割合(%)	3.1	4.0	2.3	1.0	0.9
日本人論文数 (国際共著を含む)	日本誌	14,743	8,272	6,316	73	82
	海外誌	56,585	26,825	29,227	380	874
	海外流出率(%)	79.3	76.4	82.2	83.9	91.4
日本人論文世界シェア		12.0	13.3	11.2	4.1	7.2
海外誌日本人論文シェア		9.8	10.6	9.4	3.5	6.6
日本誌国際化率		18.9	22.0	14.0	36.0	28.7



支援内容

国際学術情報流通基盤整備事業

- 1 国立情報学研究所が、科学技術振興機構、大学図書館と協力して、学協会の学術雑誌の電子ジャーナル化による研究成果の海外発信を支援する。
- 2 関係団体及び学識経験者による評議会を組織し、支援すべき学協会学術雑誌を募集する。
- 3 国立情報学研究所が中心となって、各種の支援事業を行う。
 - ・学協会へのコンサルティング
 - ・大学図書館へのサイトライセンス契約の普及
 - ・新たな研究成果発信方策の検討

● 英文電子ジャーナルの国際化
● 認知度の向上
● 電子ジャーナルビジネスモデルの確立

平成15年度の活動と成果

活動	成果
・国際学術情報流通基盤整備事業説明会(東京、仙台) ・参画提案募集(応募: 51誌40学会) ・参画提案選定(21誌16学会) ・作業グループ活動(合同会議、全体懇談会) ・第5回図書館総合展フォーラム開催(SPARC/JAPAN: 日本の国際学術コミュニケーションの変革) ・国立大学図書館協議会電子ジャーナルタスクフォース(生物系、物理系、医学系の購読交渉) ・Project Euclidの招聘と連携強化(説明会開催) ・生物系セミナーの開催 ・米国での調査活動 ・Duke University(XMLデータ作成技術動向調査) ・ICOLC 2004 ・Johns Hopkins University(Project Muse調査) ・SPARC/USA	<div style="border: 1px solid #ccc; padding: 2px; margin-bottom: 5px; background-color: #d9ead3;">生物系パッケージ UniBio Press の誕生</div> <ul style="list-style-type: none"> ・生物系ジャーナルのパッケージ化 ・日本動物学会、日本哺乳類学会、日本哺乳類学研究会 ・わが国初の複数学会による自主パッケージの成立 <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 2px; margin-bottom: 5px; background-color: #d9ead3;">大学図書館との電子ジャーナル購読契約</div> <ul style="list-style-type: none"> ・UniBio Pressの契約成立の他、物理系等の契約交渉開始 ・わが国初の電子ジャーナル購読契約交渉の実施と成立 <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 2px; margin-bottom: 5px; background-color: #d9ead3;">数学系ジャーナルへのProject Euclid紹介</div> <ul style="list-style-type: none"> ・数学・統計系ジャーナルの統一プラットフォームの紹介 ・SPARC(US)/パートナーであるProject Euclidとの協働成立 ・数学・統計系ジャーナル相互の情報交換

平成16年度のタスクと目標

タスク	目標
(1) 作業グループを核とした事業推進 パッケージ化推進のための支援、新規参画学協会の募集や(2)～(5)の支援、コンサルティングを行う	分野別(分野横断)パッケージの強化 ・UniBio Pressの拡充 ・Project Euclid, Project Museとの連携強化 ・新規参画学協会の選定によるパッケージの充実
(2) 電子ジャーナル化の推進 JSTとの連携による電子化支援や利用統計の収集、分析を行うほか、適宜変換方針の策定等を行う	サイトライセンス契約の拡充 ・選定誌の購読機関の拡充 ・電子ジャーナルのビジネスモデルの確立
(3) 大学図書館との連携 大学図書館コンソーシアムとのサイトライセンス購読交渉や最新の動向(オープンアクセス、機関レポジトリ等)に係るセミナー等教育宣伝活動の推進	電子ジャーナル化の推進 ・J-STAGEの機能評価 ・適宜変換の実施 ・電子投稿・編集システムの試行と評価
(4) 研究者投稿動向調査 (5) 選定誌の競争力評価と戦略目標の設定 国内誌への投稿呼び戻しや選定誌の評価向上のための戦略策定を目的とした調査実施	次年度へ向けた指針作り ・選定誌の認知度向上のための戦略策定 ・オープンアクセスの検討

平成16年度活動スケジュール

6月2日	第1回評議会(16年度事業計画、新規参画募集)
6月2日～8月20日	参画提案募集
6月16日・17日	米国SPARCとの打合せ
7月1日	国立大学図書館協会総会ワークショップ
7月4日	医学情報サービス研究大会(東京大会)
7月7日	国際学術情報流通基盤整備事業説明会
7月8日・9日	東北大学セミナー(数学系、材料系)
7月～9月	研究者投稿動向調査
7月～9月	生物系セミナー(関西)
9月～	国立大学図書館協会電子ジャーナルタスクフォース(選定誌の購読交渉)
9月中下旬	参画提案選定
9月下旬	作業グループ合同会議
9月下旬	Project Euclidワークショップ(名古屋)
10月28日～30日	ICOLC Fall'04 Barcelona
11月24日～26日	第6回図書館総合展

この他、随時セミナー、シンポジウム等の教育・宣伝活動を開催予定